
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 393 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2016.12.01（土）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 982 部*****

□ 目次 □-----

<巻頭言> 格差社会とコミュニティの崩壊がトランプを生んだ 渡邊 博

<お知らせ 1> 山崎農業研究所所報『耕 No.139』発行されました

<お知らせ 2> 第 155 回定例（現地）研究会＝玉川上水を巡る

<編集後記> アメリカの分裂

<巻頭言> 格差社会とコミュニティの崩壊がトランプを生んだ

戦国時代以前の歴史物語は大抵英雄や偉人しか頭に浮かばない。庶民の姿がなかなか見えてこないのである。学問の世界においても、戦国時代以前と江戸時代では、庶民に関する資料、情報量は極端に違う。理由は簡単だ。識字率が江戸時代に大きく飛躍し、庶民に関する記録が飛躍的に伸びたからである。

農村にも多くの寺子屋が創られ、教師は上層農民、僧侶、神職など様々だが、村内に適当な者がいない場合は、みんなで金を工面し、余所から招くこともあったらしい。江戸時代の就学率は定かでないが、明治初期の就学率から類推するに、江戸末期には男子で約半分、女子でも約 2 割が何らかの教育を受けていたのではないかと思われる。

村と役人のやりとりはすべて文書を介在して行われるようになった。各所の村に残る記録から、灌漑用水、里山・農地の管理、冠婚葬祭、教育など、村落は領主の介入なしで、自律的にコミュニティを形成し、相互扶助的な社会を形成していたことがよくわかるのである。

一方、工業化、近代化はこのような地域のコミュニティを分断し、英国では産業革命後、早くも現代の日本でも問題になりつつある独居老人や低所得者などの単身者増加が顕著になり、国家の介入が無ければ社会の維持が成り立たな

い状況にまで追い込まれていった。現代アメリカでも、極端な経済格差が進行している中で、地域コミュニティの崩壊は深刻である。新自由主義は国家の介入を嫌うが、そこから零れ落ちた圧倒的多数の人々は弱体化したコミュニティの代替としての国家（のサービス）が必要なのである。

トランプの勝利はこのような新自由主義の矛盾に割って入った結果だと思う。ポピュリズムを批判する声をよく聞くが、それが問題の本質だとは思わない。日本でもその傾向が強まりつつあるが、エリート層の世襲化が富裕層と貧困層を固定化し、格差の拡大再生産を常態化していることに問題の本質があると思う。

直接的な植民地を持たない 20 世紀の新興大国アメリカは、建国以来、軍事力と経済力で孤立主義的帝国主義を貫いてきた歴史がある（モンロー主義や一連の国連無視を思い出すと良い）。コミュニティによるセーフティネットが機能しなくなったアメリカでは、庶民は“アメリカ・ファースト”に一縷の望みをかけたのだと思う。トランプは露骨に孤立主義的帝国主義を前面に押し出してくるだろう。さて、安倍さん！ これでもアメリカに寄り添い続けますか？ さあ、どうする。

渡邊 博

山崎農業研究所事務局長

yamazaki@yamazaki-i.org

<お知らせ 1> 山崎農業研究所所報『耕 No.139』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.139』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

《土と太陽と》（巻頭言）

いまなぜベーシックインカムか

——これからの「百姓的」生き方を支える政策提言©白崎一裕

[第 154 回定例研究会]

グローバル化から「農本化」としてのローカリゼーションへ◎関 曠野

[第 42 回研究所総会・第 40 回山崎記念農業賞]

総会挨拶◎小泉浩郎

第 40 回山崎記念農業賞贈呈式（栃木県益子町・(株)川田農園)

選考委員報告◎渡邊 博

お祝いの言葉◎加藤敏之／松本 謙

受賞者挨拶◎川田 修

■総会記念フォーラム：

「こだわり」で結び合う農と食—農園と厨房をつなぐ川田農園の挑戦

I 解題：川田農園が教える食と流通◎小泉浩郎

II 我が国における有機農業の動向◎家常 高

III 栃木県の 6 次産業化振興と川田農園の特徴◎小林俊夫

IV 「農園」から「厨房」まで◎川田 修

参加者の声◎若林祥子／内田空美子／丸山紀之／堀 泰史

[特別対談]

川田農園の今と明日を語る◎松本 謙×小泉浩郎

〈連載〉“生きもの語り”の世界から(10)

なぜ日本人は、「天地自然」に惹かれるのか／宇根 豊

<お知らせ 2> 第 155 回定例（現地）研究会＝玉川上水を巡る

昨年、山崎農業研究所の安富六郎前所長が『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』を出版されたこともあり、農業土木との関係が深い武蔵野台地用水、江戸町生活支えた玉川上水を訪ねての現地研究を 10 月 29 日に開催しました。現地見学に先立ち、羽村郷土歴史館に隣接する市の集会場、「清流会館」で安富前所長から 1 時間ほど話題提供していただき、午後からマイクロバスに乗って、いくつかの地点を見学しました。

当日の行程は以下のとおりです

11：00～12：30 安富前所長の講演と意見交流：羽村市清流会館→

12：40～13：10 羽村堰見学→13：10～13：30 羽用水（車窓）→

14：30～14：50 府中用水堰（青柳）→中用水堰（青柳）→
15：30～16：00 野火止用水分堰→16：40 千川上水分点（車窓）→
17：00～17：10 三鷹～井の頭公園間の玉川上水（車窓）→
公園間の玉川上水（車窓）→17：30～19：30 懇親会

安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』
（農文協、199 ページ、定価 1700 円〈税別〉）

www.amazon.co.jp/dp/4540142631

<編集後記> 日常食の延長線上に災害食を

先日、長男の通っていた高校で開かれた講演会で興味深い話を聞いた。テーマは「非常食から災害食へ」、講師は別府茂さん（ホリカフーズ取締役、日本災害食学会理事）である。

非常食の開発に携わる別府さんが災害時の食をいまのようなかたちで取り組むようになったきっかけは、1995 年阪神・淡路大震災だったという。震災時、「被災地で非常食は役に立たなかった」との報告書を目にし衝撃をうけた。水がないとパサパサした食品は飲み込めない、入れ歯を持ち出さなかったお年寄りには固いものは食べられない、冷たいご飯は食べたくない、温かいものがほしい……。

阪神・淡路大震災から 20 年ほど後におこった東日本大震災でも食に関するさまざまな問題がおこった。震災からまもなくして、たしかに避難所に食べものは届けられたが、多くはおにぎりや菓子パンであった。

災害食とは、(1)被災地で生活、活動するすべての人々に必要な食である。
(2)日常食の延長線上にあり、室温で保存できる食品及び飲料 はすべて災害食となりうる。(3)加工食品(飲料を含む)及び災害時に限定された熱源、水により可能となる調理の工夫も含める——だという。

おもしろいな、と思ったのは、別府さんの 2004 年新潟県中越地震の経験である。新潟県で暮らす別府さんは山村に暮らす友人に話を聞いたところ「何も問題なかった」という。水は井戸水がある、火は薪でおこせばいい、食べものの備蓄もある、トイレはくみ取り式……。

思えば、かつての食では「保存食」というものが実に存在感があった。漬け物や味噌はその代表格だろうし、米を蓄える量も今よりずっと多かった。それは、昔は災害というものが日常と離れていなかったということ、そしてハードによる防災がいまほどすすんでいなかったということとも関係している。

便利な暮らしほど災害に弱い——これは東日本大震災時に痛感させられたことでもある。別府さんは、具体的な災害食のあり方として、鍋、カセットコンロ、ポリ袋、そして食材があれば簡単にできる「パックスッキング」や缶詰やレトルト食品を普段の食で使い足す「ローリングストック」も紹介された。どちらもかつての（そして今もなお地方で息づく）自給的な暮らしの現代版といえないだろうか。

2016年12月01日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売
『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』
(発売：2008/11 定価：1,575円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）
グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん（大地を守る会）

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”
「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）
キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん（拓殖大学政経学部）

ブログ：代替案 書評：『自給再考 — グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）

ブログ：囲炉裏暖炉のある家 tortoise+lotus studio 「書評『自給再考』

<http://iroridanro.net/?p=15533>

◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

（2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優）

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎小谷敏さん（大妻女子大学）

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん（(株) 共に生きるために）

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎塩見直紀さん（半農半X 研究所、執筆者）

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化

けの原因です。

次回 394 号の締め切りは 12 月 12 日、発行は 12 月 15 日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 393 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2016.12.01（土）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』 *****